

8608 角を曲がって、ゆるやかな坂をくだる

角を曲って、ゆるやかな坂をくだる。車がやって来たので、道のわきへ寄った。  
車は彼の横で停止した。

「おい、久しぶりじゃないか」

車の窓から首を出した男が、陽気にどなった。「どうしていたんだ？あれから・・・・・・  
まだ会社へ行っているのか？」

それは、学校の同窓生であった。その男の会社がすぐそばだったので、何度か一緒に飲み  
に行ったのだ。いい飲み仲間になれそうだったのに、そいつは退社し、自分で事業をはじめ  
たのである。

眉村 卓：それぞれの曲り角

[許容訳例]

Turning a corner, he went down a gentle slope. A car came toward him, so he stepped to  
one side of the road.

The car stopped beside him. A man put his head out of the window and shouted cheerfully:  
“Hi. It’s a long time since we last met. What have you been up to? Still working for the  
company?”

The man was a former classmate. He had worked for a company near his, so he had  
sometimes gone out to have a drink with him. He had thought that the other would make a  
good drinking companion, but just then the other had resigned his job to start a business of  
his own.

[翻訳例]

Turning the corner, he started down a gentle slope. A car approached, so he stepped to side  
of the road. But the car drew up alongside him.

A man put his head out of the window.

“Hi, stranger!” He bawled cheerfully. “How’ve things been? Still with the firm?”

They’d been classmates at school. The other man had worked close to his own office, and  
they’d gone to have a drink together on a number of occasions. They were just getting into  
their stride as drinking partners when the other had quit his company and gone into business  
on his own.

■角を曲って、ゆるやかな坂をくだる。(8608)

★「角を曲る」は turn the [a] corner です。なお、前後の関係で冠詞は変わります。

★「ゆるやかな坂をくだる」は、全体が過去のことを述べている文章ですから過去時制に変  
えて英語に変換しなければならないのですが、「坂をくだった」(went down)とすると、もう

坂の下に着いたということになってしまいます。ここでは、まだ坂の下まで行っていないのですから、「(彼は)ゆるやかな坂をくだりはじめた」か、あるいは「(彼は)ゆるやかな坂をくだっていた」と処理することになります。he started down a gentle slope です。

● [て] (動作順次) (角を曲って、ゆるやかな坂をくだる)

「角を曲って、ゆるやかな坂をくだる」は「A して (そして) B する」ですから、A and B でもよいのですが、同時性が強いので Turning the [a] corner, he started down a gentle slope. です。

■車がやって来たので、道のわきへ寄った。(8608)

★「車」は‘不特定の一台の車’ですから a car です。

★「やって来た」を came toward～とすると「～を目指して(まっすぐに)」という感じで、ぶつかりそうなので「近づいて来た」として approached が最も良く、次に came along ぐらいでしょう。

★「道のわきへ寄った」は stepped to the side of the road ぐらい。step aside は単に「脇へどく」という動作を示すだけで「道の」の意味が含まれていません。step out of the way も「わきへどく」で「道の」が含まれません。step out of the road なら使うことができます。

● [ので] (因果) (車がやって来たので、道のわきへ寄った)

「車がやって来た [ので]、道のわきへ寄った」の「ので」は「因果関係」ですから 'A, so B' なのですが、ここでは 'A の原因で B という結果になった' といった因果関係が必ずしも強くないので A, and B でも構わないと思います。

■車は彼の横で停止した。(8608)

★「車は…」は前との続きで「その車」と考えて the car とします。

★「彼の横で停止した」は stopped beside him/ drew up alongside him など。draw up は「スピードを落として止まる」ということです。alongside は「二つのものが同じ方向を向いて並んで [平行して]」という感じになります。

●逆接関係を表す「は」(車は止まった)

「車は彼の横で停止した」の「は」には、「そのまま通り過ぎと思っていたのに、しかし、その車は止まった」という「逆接関係」が含まれています。したがって、but を加えて But the car stopped beside him. としてもいいでしょう。

■「おい、久し振りじゃないか」(8608)

★「おい」は、車が来たことも気がつかずに前を歩いている人に「おい」と叫んだのではなく、ここの「おい」は気がついて道をよけた人に対して挨拶の感じで呼びかけたという含みを持たせると Hi. がいいと思います。なお、Hey は全く気づいていない人に対する呼びかけですから、ここでは使えません。

★「久し振りじゃないか」は、普通は It's been a long time since we met last./ I haven't seen you for ages. などですが、ここでは会話なので Haven't seen you for ages. か、更に短く "Hi, stranger!" ぐらいです。

■車の窓から首を出した男が、陽気にどなった。(8608)

★「窓から首を出す」は put his head out of the window です。

★「陽気に」は cheerfully がいかにも男らしく陽気な感じが出ていいと思います。なお、辞書には merrily も出ていますが、これは単に「楽しく・陽気に」というだけでなく、何かお互いに通じ合っている気持ちが裏にあるというニュアンスの言葉で、ここでは使えないと思います。

・「どなる」は、辞書には bawl; yell; cry; roar; thunder; bark が出ていますが、yell も bawl に近い感じで使えます。cry はびっくりした時とか、何かが起こって思わず叫ぶという場合です。roar はライオンなどが吠える時ですし、thunder は、たとえば、父親がかんかんになってどなる時ですし、bark は短く鋭くどなる時で、いずれもここでは使えません。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(車の窓から首を出した男)

「車の窓から顔を出した男」は「連体修飾節(車の窓から首を出した)＋不定代名詞的体言(男)」です。普通、「連体修飾節＋体言」には三つの処理方法があります。①は、「名詞・代名詞＋関係詞節」で、ここでは A man who put his head out of the window です。②は「名詞・代名詞＋コンマ句」で、ここでは A man, with his head out of the window, …です。③は「分詞構文＋主語(名詞・代名詞)」で、これは体言が特定名詞(固有名詞など)場合にも使われるもので、ここでは Putting his head out of the window, a man …となります。①はついでに状況・理由を付加するニュアンスの場合に使い、②は「男は、窓から首を出したまま、・・・」で「同時性」を含む場合に使います。③は「車の窓から顔を出した男は」を「車の窓から顔を出して、男は・・・」と言い換えた場合と同じです。しかし、ここでは「おい、久しぶりじゃないか」と、次の「どうしていたんだ?・・・」を同じ伝達動詞(どなった)で処理しなければならないので、④として「(一人の)男が車の窓から顔を出した。」と独立させて、「おい、久しぶりじゃないか」と「どうしていたんだ?・・・」とを「陽気にどなった」という一つの伝達動詞で処理するのが自然な英語の流れになります。

■「どうしていたんだ?あれから・・・まだ会社へ行っているのか?」(8608)

★「どうしていたんだ?」は、今現在の状態(「どうしている?」(How are you getting along?))ではなく、過去のある時から今までずっと、どうしていたのか」とたずねているのですから How have things been?とか、What have you been up to?などです。この to be up to something という表現は、何か相手が悪いことをしたのではないかとと思われる場合、たとえば、I'm sure he's up to no good. (彼はきつと何か悪いことをたくらんでいる)のように使うのですが、それから転じて、親しい間柄で「どうしてたの;何してたの」という場合に用います。たとえば、子どもが泥だらけになって帰ってきたような場合、What have you been up to?と言ったりします。

★「あれから」は前後いずれの文にかかるか微妙なところですが、一応前文に続くと考えると since we met last ですが、前文(「どうしていたんだ?」)で完了形を使うなら、その中に含まれますので強いて訳す必要はありません。

★「まだ会仕へ行っているのか?」は「今も(同じ)会社に行きつづけているのか?」という意味ですから Are you still working with [for] the (same) company [firm]?か、完了形を用いるのなら still を使わずに Have you been working all the time with [for] the (same) company [firm]?とします。なお、17 世紀頃までの英語では still にも all the time (今までずっと) とか always の意味もありましたが、今では完了形と一緒に使うのはおかしいと感ぜられています。

■それは、学校の同窓生であった。(8608)

★「それは、学校の同窓生であった」は「それは(=声をかけた男は)、学校の(→学校時代の以前の)同窓生であった」と補って The man was one of his former classmates (former を補わないと、英語では今も学校に通っている同級生となってしまいます)か、あるいは The man had been one of his classmates.です。なお、The man の代わりに It を使うこともできます。その場合は、彼そのものを直接受けると言うより、‘前述の声をかけてきた男は’という感じ、つまり、It was …who…の後半が省かれた感じで it を使うわけです。それから、one of his former classmates の代わりに a former classmate でも構いません。なお、ここではどちらも代名詞は he で紛らわしいので、こういう場合、They を主語にして They had been classmates at school.がもっとも英語らしい言い方となります。

■その男の会社がすぐそばだったので、何度か一緒に飲みに行ったのだ。(8608)

★「その男の勤め先が彼の会社のすぐそばだった」では「その男」と「彼(の会社)」の区別がむずかしい。混同しないように充分に考える必要があります。He had worked for a company near his でも通じますが、前の文を They had been classmates at school にすると、The other (man) had worked (at a place) close to his (own) office. です。

● [ので] (軽い因果関係)

[ので] は「因果関係」なのですが、ここではそれほど強い理由ではないので and でいいでしょう。もちろん、so でも構いません。

★「何度か」は sometimes でもいいのですが、「何度か・いくつか・何人か・いくらか」というような日本語の場合には、まったく主観や感情が入らない a number of がぴったりと思えます。たとえば、several は「必ずしも数が多くなくても、そんなに少なくない」ということを強調する感じであり、a few は「そんなに多くはない」をいう点に比重が掛かっています。したがって、ここでは a number of times か on a number of occasions ぐらいがいいでしょう。

★「一緒に飲みに行った」は、ここでは「(会社の帰りなどに)ちょっと軽く飲みに行った」という感じですから he had gone to have a drink with him./ They'd gone to have a drink together ぐらいです。なお、go out drinking を使うと、have a drink よりもうちょっと多く飲むというニュアンスになります。

■いい飲み仲間になれそうだったのに、そいつは退社し、自分で事業をはじめたのである。(8608)

★「いい飲み仲間になれそうだった」は He had thought that he would be a good drinking companion でもよいし, They were just getting into their stride as drinking partners としてもいいです. get into one's stride というのは, もとは乗馬の用語ですが, 「調子に乗る・調子が出る」ということです.

● [のに] (「逆接」あるいは「同時」)

[のに] は「のだが」と解釈すると「(二人は)いい飲み仲間になれると思ったのだが・・・」で He had thought that he would be a good drinking companion, but... ですが, 「ちょうどその時に (残念ながら)」と解することも出来ます. その場合は when で, 「(二人は)いい飲み仲間になれそうだったちょうどそのときに・・・」として They were just getting into their stride as drinking partners when...」となります. この方が, いっそう英語らしくなります.

★「そいつは退社し・・・」は he resigned...とか The other left [quit (米)] his company です. なお, ここでは he had resigned...とか The other had left [quit (米)] のように過去完了で使います.

★「自分で事業をはじめる」は start a business by himself とか start his own business とかです. もう少し難しい表現を使うと go into business on his own です. これは‘独立して事業とか会社を始める’場合に使う表現です.

● 「・・・[して]・・・した」は and (動作順次) か 「主動詞+to 不定詞」

「そいつは退社 [して], 自分で事業をはじめた」の [して] は [して, それから] ですから「動作順次」で and を使って The other had left [quit] his company and gone into business on his own./ He had quit his company and gone into business on his own. と結ぶことが出来ますが, 「主動詞+to 不定詞」で he had resigned to start a business by himself./ He had resigned to start a business by himself [start his own business]. と書くことも出来ます. それから, 過去時制で書くことも出来ますが, 何年ぶりかで二人が出会った時点よりも前のことですから, 回想的に過去完了を用いるべきです.